

## さらなる安全性向上に向けて

当社は、2005年4月25日に発生させた福知山線列車事故を重く受け止め、福知山線列車事故のような重大な事故を二度と発生させないことをJR西日本グループすべての思考、行動の原点とし、確固たる決意のもと安全性向上の取り組みを積み重ねてまいりました。

2022年度は、2018年度にスタートした「JR西日本グループ鉄道安全考動計画2022」の最終年度であり、グループ全体で安全性向上と計画に掲げた目標達成に向けて、「安全の実現に欠かせない視点」にもとづきハード・ソフト両面から取り組みを進めました。

本計画では、「安全最優先の意識の浸透」を土台とし、「組織の安全管理の充実」と「一人ひとりの安全考動の実践」を通じて、「安全を維持する鉄道システム」の充実を図り、「全員参加型の安全管理」により、重大な事故や労働災害の未然防止をめざしました。

また、安全管理体制全般を振り返り必要な改善を実施する「安全マネジメントレビュー」を軸とした安全マネジメントの仕組みを整えました。さらに、「迷わず列車を止める、作業を止める」等の安全最優先の具体的な判断と行動、現場起点での能動的な考動等、JR西日本グループの一人ひとりが安全考動を積み重ねてきました。一方で、2022年度には、お客様の安全やステークホルダーの信頼を損なう深刻な事象も発生させています。とりわけ2023年1月の京都地区を中心とした降積雪への対応では、数々の不手際があり、多くのお客様に多大なるご迷惑や心身への大きなご負担をおかけいたしました。お客様の状況を鑑みた考動を実践するためには、従前の仕組みや社内外の連携等を検証し、改善していく必要があります。

これらの課題を解決すべく、2023年4月に新たな中期の鉄道安全計画である「JR西日本グループ鉄道安全考動計画2027」をスタートさせました。

本計画では、経営層が率先して「現場起点の考動」に取り組むとともに、「お客様を想い、ご期待にお応えする」ことを強く意識していくことで安全に対する向きあい方を深め、安全最優先の風土を醸成していきます。さらに、経営層をはじめとした私たち一人ひとりが大切にしたい価値観を共有し、主体的な安全考動を積み重ねるとともに、互いを認めあい、率直に発言し、挑戦を通じて学び高めあう「心理的に安全なチーム」づくりに取り組みます。これらを通じて、系統や組織をこえて現場の課題を共有し、仲間とともに「現場起点の考動」による課題の解決を図っていきます。

加えて、駅ホーム・踏切の安全対策や地震・降雨対策をはじめとした防災・減災、車両更新、防犯対策、労働災害防止等、設備の強化・拡充を図るとともに、仕組みやルールを見直し改善することでそれらの有効性を高めます。なお、2023年8月にグループ会社の社員1名が架線設備の点検作業中に死亡する鉄道労災を発生させています。事象を重く受け止めるとともに、今後必要な対応を行ってまいります。

いかなる状況にあっても、安全性の向上は経営の最重要課題であり、「お客様を安全に目的地までご案内すること」は不変の使命です。このことを強く認識し、JR西日本グループ一丸となり弛まぬ努力を積み重ね、企業理念に掲げた「お客様から安心、信頼していただける鉄道」を築き上げていきます。私自身、確固たる決意のもとリーダーシップを発揮していきます。

お客様や地域の皆様におかれましては、本報告書をご高覧の上、ご意見やご助言をいただければ幸いです。

代表取締役社長

長谷川一明

